

令和6年度
調布あんしんコール実証事業 総括
—実証から得た気付き

2025年4月18日(金)

令和6年度の実証を通じた気付き

1 「市民起点」の重要性 ―市民生活の実態把握

- ✓ 本実証事業においては、受付対応をしている中で、「①自宅の固定電話の回線が、本サービスに対応していない」、「②申し込みに家族の同意を得難い」などのハードルがあったことが明らかとなった。
また、アンケートの結果から、特殊詐欺対策として「そもそも電話に出ないこと」が市民に浸透していたことが読み取れた。
 - ✓ これら実証事業を行ううえでハードルとなった点については、市民生活の実態を正確に把握できていればクリアできた可能性
- 実証事業の企画にあたって、協議会のMVVに沿った評価軸に基づく事業評価の枠組みの検討と併せて、企画の内容が市民の生活実態やニーズにマッチしていることを確かめる必要があったという反省につながった。また、企画段階だけでなく、実証期間中においても継続的にその把握に努め、その結果を反映しながらプロジェクトを進めていく必要がある。

2 柔軟性・可変性の必要性 ―実証効果を高めるための事業サイクルの検討

- ✓ 協議会は実証の場であることを踏まえ、アジャイル的な開発手法を活用し、実態を踏まえた柔軟かつ迅速な対応を可能にすることで、プロジェクトの成功確率が高まる。
- ✓ 早いサイクルでPDCAを複数回繰り返すことを念頭に、事業資金の確保策と併せて、適切な実証期間を設ける視点も重要

3 先進的実証事業に取り組む価値 ―市民の関心喚起, 調布市の魅力向上に資する可能性

- ✓ 調布スマートシティ協議会の取組であること・先進的な技術を用いた取組であることに興味、関心を持ち、実際に市主催の説明会の参加や、事業自体の問い合わせを多くいただいた。
産官連携にて成果を創出する取組が、市民の「特殊詐欺対策」に関する興味・関心を喚起し、防犯意識の向上につながった可能性。
- ✓ 本件について報道等でも扱われたことで、調布市の認知度、魅力の向上につながった可能性